

定員
400名
手話通訳・
要約筆記あり

第40回ホリプロタレントスカウトキャラバンで特別賞を受賞。ABC『新婚さんいらっしゃい』やNHK『サイエンスZERO』ではMCを務めるほか、マラソンやトレイルラン、料理や選挙取材などテレビのみならず、他ジャンルでも活躍中。

子宮けいがんはワクチンで 予防することができます

HPVワクチンの効果

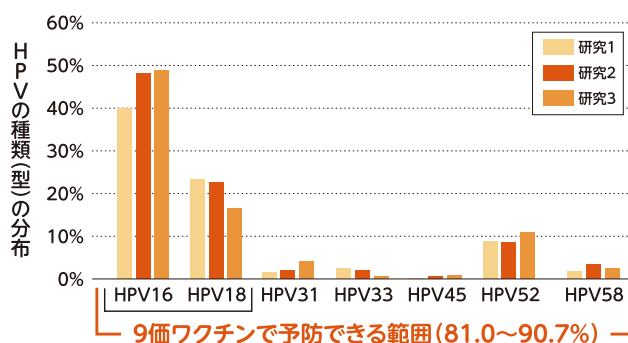
現在日本において公費で受けられるHPVワクチンは、9価ワクチン(シルガード®9)です。

シルガード®9は、HPV16型、18型など複数のHPVの感染を防ぐため、子宮頸がんの原因の80~90%を防ぎます。



「9価ヒトパピローマウイルス(HPV)ワクチン ファクトシート」(国立感染症研究所)をもとに作成
研究1: Onuki,M.,et al.(2009).Cancer Sci 100(7): 1312 -1316
研究2: Azuma,Y.,et al.(2014).Jpn J Clin Oncol 44(10):910-917.
研究3: Sakamoto, J.,et al.(2018).Papillomavirus Res 6:46-51.

日本人女性の子宮頸がんにおけるHPVの種類(型)の分布と、
ワクチンで予防できる範囲



接種スケジュール

小学校6年~高校1年相当の女の子を対象に、一定の間隔をあけて、合計2回または3回接種します。接種を開始する年齢によって、接種のタイミングや回数が異なります。

15歳未満で接種を開始すると、
合計2回で接種が完了します。

いずれの接種回数でも、1年以内に接種を終えることが望ましいとされています。

※1 1回目と2回目の接種は、少なくとも5か月以上あけます。5か月未満である場合、3回目の接種が必要になります。

※2・3 2回目と3回目の接種がそれぞれ1回目の2か月後と6か月後にできない場合、2回目は1回目から1か月以上(※2)、3回目は2回目から3か月以上(※3) あけます。

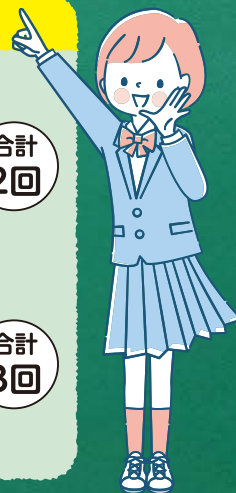
一般的な接種スケジュール

シルガード®9

1回目の接種を
15歳になるまでに
受ける場合



1回目の接種を
15歳になってから
受ける場合



HPVワクチンのリスク

HPVワクチン接種後には、接種部位の痛みや腫れ、赤みなどが起こることがあります。まれですが、重い症状(重いアレルギー症状、神経系の症状)が起こることがあります。

因果関係があるかどうか分からないものや、接種後短期間で回復した症状をふくめて、HPVワクチン接種後に生じた症状として報告があったのは、接種1万人あたり約4人です。

このうち、報告した医師や企業が重篤と判断した人は、接種1万人あたり約2人です。